

読書ノート

先月号に紹介した「あじいちゃんとの最後の旅」の著者、ウルフ・スタルクの本は図書館に何冊もあってうれしい。訳者も同じ菱木晃子。

● 黒いバイオリン アンナ・ヘルグリンド 絵

病気で寝たまりの妹サーラ。今日もぼくは、オットとサーラのそばにすわっていった。ページごとにカラーの色絵。しづかに物語と会って、こんな本に出会ってしあわせ。

● あじいちゃんの口笛 アンナ・ヘルグリンド 絵

絵と物語が一体になつて、私も仲間になつていく。子どもの成長に、年よりの存在は大事。私が大切な思い出か……。何回も読んだ。

● ニ回目のキス はたこうじろう 絵

ウルフ9歳。はじめてのキスは友だちの姉さんにされた。ウルフのエモアセンスに頬かゆみ、口説き合もす。

● のんびり村は大きわざ アレナ・ヘードマン作 杉原知子 絵

訳者の菱木さんにひかれ、この本も。多くの訳本がある。スウェーデンは「ニ尔斯のふしきな旅」やリンドグレンの「やかまし村」シリーズなどでは特別な親しみがある。この本も一気に読む面白さ。主人公の少女は祖父母の住むのんびり村で、友人たちといっしょにキネス世界記録に挑む。ふつうに暮らす人々のぬくもりが伝わってくる。訳者は、スウェーデン王室より「北極星勲章」を受勲。私、娘たちとストックホルムへ泊のすきな方舟をしました、何年も前のこと。

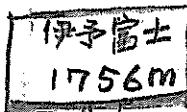
○ 1/15 9年ぶりくらいに四ヶ嶺山頂まで登る。いつもは竜神平で休憩飲んで帰るけど、やつは「山はいいなあ。

けやき通信 2021.11月 No.341

一錦織 佳代子一

10/28 はじめて登った伊予富士

「富士」を実感できる
すばらしい展望



(全国に100富士がある)
(100くらいあるらしい)

60分で頂上で会った女性と、ガイドの方に。ひわ湖の近くから来ました。

ちょうどカスカーラで、何も見えない。

ホランティアの方、8人くらいが、今日、扇引き。ひとり扇刈りをしてくれて、そこら凧は

少し天気よし歩きやすい。

11/4 黄葉の四ヶ嶺へ

紅葉がきれいですと庄司さんからメール。さっそく出かけた。空をあおうように枝をのはしたフナ、ミズナス、モミジ。赤や黄色の美しい世界。山は平和。

駄菓子屋の棚に並んだ「カバヤ」の本

タイトルを今もおぼえてる。深山あつた。私が物語の世界を知り、本が好きになつたのは、戦後の本のないところのあのカバヤ文庫と貸本屋の本のおかげ。母が寝床で読んでくれたふどんのぬきとりとともに思い出す。

ある日、町内に大きなカバの形をした車がやってきた。

昭和27~30年くらいのこと。

Kさんに頂いた小さな箱入りクッキー

マカロン

いい文字、カバヤ食品(株)

カバヤ！ なつかしい。

赤い箱のキャラクター中のカートをためると

大人も子どもも集まる大ようこび。

山友たち伊予市の八倉さんも覚えていた。

池内紀先生がカバヤ児童文庫のこと

エッセイに書かれていた。

わたし カバヤ 児童文庫をもらえた！

カバヤは、戦後の子どもたちに大きなプレゼントを贈ってくれた。